

水稻品種「にじのきらめき」の概要

農業振興課

1 育成経過

- ① 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中日本農業研究センターにおいて、高温登熟性に優れる「なつほのか」を母、極良食味の「北陸 223 号」を父として育成された品種である（令和 4 年品種登録）。
- ② 「コシヒカリ」熟期の良食味品種で、多収で耐倒伏性に優れる。
- ③ 高温耐性に優れ、白未熟粒の発生が少ない。



写真 登熟期の草姿（左：にじのきらめき、右：コシヒカリ）



写真 玄米（左：にじのきらめき、右：コシヒカリ）

2 現奨励品種「コシヒカリ」と比較した特徴

- ① 出穂期が 3 日、成熟期は 6 日程度遅い。
- ② 稈長は 20cm 程度短く、耐倒伏性に優れる。
穂長がやや長く、穂数は同程度。
- ③ 収量は 1 割程度多収である。

- ④ 玄米は粒が大きく、千粒重は2g程度重い。
- ⑤ 玄米の外観品質が優れ、白未熟粒の発生は少ない。
- ⑥ 玄米タンパク質含有率はやや低く、炊飯米は同等の良食味である。
- ⑦ 病害抵抗性は、葉いもちが‘中’、穂いもちは‘やや強’と優れ、縞葉枯病の抵抗性をもつ。

*表 農林総合技術センター「にじのきらめき」の調査結果参照

3 奨励品種決定の理由

以下の点から、「にじのきらめき」の導入によって、収量及び品質の向上が期待でき、生産者の経営安定や良食味米の安定供給につながると判断できる。

- ① 本県の全域に普及している現奨励品種の「コシヒカリ」「ひとめぼれ」と比較し、収量及び外観品質が優れていること。
- ② 高温耐性が「コシヒカリ」「ひとめぼれ」より優れ、高温条件下でも外観品質が低下しにくいこと。
- ③ 実需者からは、問題なく取り扱えることが確認され、販路の確保が見通せること。

*表 農林総合技術センター「にじのきらめき」の調査結果
(奨励品種決定調査8カ年(平成28～30, 令和3～7年産)平均)

品種	出穂期 月. 日	成熟期 月. 日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	収量 kg/a	収量比 %	玄米 千粒重 g	倒伏 程度 0～5	外観 品質 1～9	玄米タンパク 含有率 %
にじのきらめき	7.25	9.01	68	20.3	377	59.1	111	24.2	0.0	4.2	7.1
コシヒカリ	7.22	8.26	89	18.7	380	53.4	100	21.6	1.3	4.8	7.6

- (注) 1. 山形県農林総合技術センター(山形市大内氷上、防府市台道)における5月15日移植での調査
 2. 収量、品質は篩目1.7mm以上の値
 3. 品質は1(上上)～9(下下)の9段階(1等の下限が5.0に相当)から評価